

令和6年度学校評価報告書

令和7年(2025年)3月17日

北海道教育委員会教育長 様

北海道佐呂間高等学校長 山 崎 逸 子

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1)きめ細やかな指導と確かな学力の向上を図ることにより、質の高い魅力ある教育活動を展開する。
(2)家庭・地域との連携、町の活性化に参画し、期待に応える学校づくりを行う。
(3)教職員の資質能力の向上を図り、協働体制を確立し、学校課題の解決にあたる。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	T-baseでの授業配信やICT機器を有効活用しての授業作りを進め、主体的・対話的で深い学びの視点に立った学習指導、授業を心がけた。授業シラバスの活用にも努めた。	社会で生きる力を学校で育成することは、社会人の若者を見ていて、大切なことだと共感できる。ICT活用も、引き続き最新の指導をお願いしたい。
改善方策	・引き続き、確かな学力の育成に向け、学習指導及び学習評価の充実を推進する。	
生徒指導	生徒が安心して学校生活を送るための環境づくりができています。問題の早期発見、適切な状況把握に努め、生徒の成長を促す指導を継続したい。	魅力ある町づくりにつながる人材の育成をお願いしたい。小中高の部活動の連続性については、継続協議が必要と思われる。
改善方策	・生徒個々に応じた校内支援体制の強化と保護者・関係機関との連携を進める。	
進路指導	総合的な探究の時間の学習を体系的に進め、3年間を見通した進路指導の体制を構築する必要がある。小規模校の特性を最大限に生かしたい。	大学進学や公務員への就職の増加など、講習や朝学習実施の成果が出ていると感じる。今後も継続してほしい。また、地元への就職が維持できると良い。
改善方策	・全校体制による計画的な進路指導の実施により希望進路の実現を図る。	
健康安全指導	新型コロナが5類に移行し、感染対策を講じながら、適切に日常生活に適応することができた。学校行事も、従前の内容に戻すことができた。	新型コロナウイルスの終息に伴い、地域での体験的活動の復活を嬉しく思う。豊かな人間性を培う教育を楽しみにしている。
改善方策	・感染症に強い学校運営体制により、安心安全で充実した教育環境の整備を行う。	
信頼される学校づくり	家庭・地域との連携、教育活動の説明と理解の促進に努めた。学校からの発信だけでなく、保護者・地域から意見を聞くなど、双方向型を目指したい。	町内中学生をいかに多く佐呂間高校へ進学してくれるようにするか。どんどん地域での教育活動を展開することが一番の宣伝になるのではないかな。
改善方策	・教育内容の伝達方法等の工夫を加え、保護者がより分かりやすくなるよう検討する。	
組織運営	教職員の教育目標の共有が進んだ。協働して業務に当たることで、学校課題の解決が促進した。	教職員全体で、生徒一人ひとりに応じた指導が丁寧に行われている。他校では見られないことであり、熱心な指導を今後も継続してほしい。
改善方策	・引き続き教職員間のコミュニケーションの深化を図り、情報と思いの共有を促進する。	
教職員の専門性の向上	学校経営方針に基づく業務の推進、個々のキャリアに応じた自己研鑽に努めた。また、確かな学力の育成に向け、学習指導と評価の一体化を研修した。	新学習指導要領の導入など、今の先生方は負担に感じていないか。熱心な先生ばかりなので、個性が自由に発揮されることを願っている。
改善方策	・教科研修や生徒指導研修を計画し、教職員の専門性の向上を目指す。	
公表方法	学校Webページ、学校通信、学校評議員会にて公表する。	

3 添付資料

・令和6年度 北海道佐呂間高等学校 学校関係者評価書